

論文概要の和文様式

雑誌におけるタイトル: Risky Health Behaviors of Teenage Mothers and Infant Outcomes in the Japan Environment and Children's Study: A Nationwide Cohort Study

和文タイトル: 10代の妊娠と子どもの出生時体重

ユニットセンター(UC)等名: メディカルサポートセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Pediatric and Adolescent Gynecology

年: 2019 月: 4 巻: 32 頁: 146-152

筆頭著者名: 石塚 一枝

所属UC名: メディカルサポートセンター

目的:

10代の妊婦は成人妊婦と比べて、社会的弱者で低出生体重児が多いことが知られているが、これまでは欧米の研究が多かった。今回、日本人20歳未満の10代の妊婦の心理社会的背景や健康行動と子どもの出生体重について検討した。

方法:

エコチル調査に参加している10代(20歳未満)と成人(20歳以上35歳未満)の成人の間で、ロジスティック回帰で出生体重を比較した。

結果:

10代の妊婦(1159人)は、成人(73547人)と比べて、喫煙、心理的ストレスをもつ人の割合が多かった。生まれてきた子どもの出生体重は10代と成人で差がなかった。

考察:(研究の限界を含める)

10代では、世帯収入が低く、社会的弱者の割合が高く、心理的ストレスをもつ人が多かったが、これは欧米の研究結果と一致していた。日本においても、10代の母へのサポート体制構築が重要である。限界としては、エコチル調査では、15歳未満の若年の母の参加人数が少ないため、16歳未満の特徴は明らかにできていないことが挙げられる。

結論:

10代の妊婦は、成人と比べて、喫煙、心理的ストレスをもつ人の割合が多かった。生まれてきた子どもの出生体重は10代と成人で差がなかった。